

# ぱれっと

2012  
10月  
No.158



- P 2~3 **特集 | ふくしまから避難している親子をサポート**  
のびすく仙台 NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク  
のびすく泉 一般社団法人マザー・ウィング  
ふくしまほっこりカフェ実行委員会(ハート&アート空間ビーアイ)
- P 4 **サポセン事業報告 | サポセンサロン パート4 「情報発信力を高める! 情報交換会」**  
サポセン下期事業スケジュール
- P 5 **シニア横丁日記 | シニア世代に目を向け寄り添い情報発信**  
ーみやぎシルバーネット編集発行人 千葉雅俊さんー
- P 6 **市民活動サポートセンターからのお知らせ |**  
貸室受付手続き方法を一部変更予定です  
サポセンひろば

## 特集

# ふくしまから避難している親子をサポート

## NPO法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク 仙台で安心して子育てしてもらいたい

仙台で安心して子育てができるようさまざまな支援を行っているNPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク（以下、ファミサポ）。子育てに関する情報収集・発信、相談、仲間づくり、研修、仙台子育てふれあいプラザ「のびすく仙台」の運営をしています。福島から避難している親子を対象に実施しているサロンについて、担当の三浦さんにお話を伺いました。（右写真 三浦三恵子さん ▶）



## 福島ママのための「ママともサロン」

震災後のファミサポは、全国からの支援物資の配布、防災ハンドブックの発行など、被災者のニーズの変化に対応した支援を行ってきました。「福島ママのためのママともサロン0123」は、福島県から仙台に避難してきた未就学児のお子さんとお母さんが対象のサロンです。託児つきのため、お母さんが自分の時間をもちゆっくりお話ができるのが特徴です。今年2月に第1回目を行ったところ、継続を希望する声があり、6月から月に1回のペースで実施しています。また、8月には小中学生のお子さんのお母さん向けに「ママともサロン junior」も開きました。子どもが大きくなると、子ども自身の持つ意見や主張、転校先の学校でのことなど、お母さんが抱える不安や悩みも異なるそうです。

## 「Fumiya・ねっと」で支える手を広げる

今年7月、福島から避難してきた親子向けサロンの運営者同士の情報交換を行いました。各地でさまざまな団体がサロンを開いていますが、顔を合わせる機会はなかったそうです。共通する課題が多く、今後も連携する必要性を感じたため、その場で「Fumiya・ねっと」を立ち上げました。3県

がつながる意味を込め、福島(Fu)・宮城(mi)・山形(ya)の頭文字を取っています。ファミサポを事務局に、13団体が構成されています。2ヶ月分の各サロンの予定をカレンダー化し、Fumiya・ねっと創刊号を発行。今後も定期的に発行し、福島から避難した親子を支えます。

## 仙台で安心して子育てできるサポートを

「福島には原発による特有の悩みもありますが、地域で子どもを育てる中で抱える課題には共通する部分も多いです。どんな支援の形がよいのか考え、変えられる柔軟さをもつことが大切だと思います」と三浦さん。培ってきた経験とネットワークを活かし、福島から避難した親子が仙台で安心して暮らせるようサポートしていきたいと語ってくださいました。（難波未由希）

### ○団体情報○

NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク

### ○連絡先○

仙台市青葉区国分町3-8-17 日東ハイツ204号

TEL・FAX: 022-714-2088（平日9時～18時）

HP: <http://sefami.sakura.ne.jp/sefami/index.html>

## 一般社団法人マザー・ウイング

### 未来を担う子どもたちとママに寄り添って

一般社団法人マザー・ウイング（仙台市子育てふれあいプラザのびすく泉中央指定管理団体）は子育て家庭支援の拠点を担って4年。震災後は、仙台に乳幼児と避難してきた親子へ、仙台の子育て情報提供やママ友作り、心のケアなどを通して寄り添い続けています。今回は、副館長の小川ゆみさんに話を伺いました。（右写真 小川ゆみさん ▶）



## 「きびたん'sいずみ・たいはく」

『ふくしまママの会「きびたん'sいずみ・たいはく」』は、泉区と太白区で来年5月まで、毎月開催されます。震災の影響で福島県から仙台市に転入してきた乳幼児親子向けに開催したサロンです。「きびたん」はふくしま国体のキャラクターの名前だそ

うです。「福島県から来ました」という前置きなしにダイレクトに会話ができて、ママ友同士つながることができて、情報が伝わりにくい自主避難の方もさまざまな情報を得ることができます。お楽しみイベントも工夫され、親も子も緊張感から解放されて心身ともにリラックスして過ごしていけるそうです。

## 震災を乗り越えて

東日本大震災後、建物の被害が大きかったため一時閉館を余儀なくされ、他施設を間借りしての仮設運営を経て、現在の建物に戻ってきたのは8ヶ月後のこと。仮設運営では、狭いスペースでの活動となりましたが、「狭かったからこそ、話を聞くことが沢山できて、ニーズの把握につながりました」と小川さんは振り返ります。

震災後、県内沿岸部や福島から避難してきた親子が次々と仮設運営の「のびすく」に訪れるようになりました。そんな転入ママたちのために開催したイベントの参加者が、全員福島県からの転入者だったのです。参加者のママたちが、「せっかく仙台でつながりが出来たのだから、定期的集まったらどうか」ということで、自主グループ「福島絆ピーチ会」を立ち上げました。ピーチ会には反響があり、沢山の問い合わせが寄せられました。この反響がニーズ把握につながり「福島県から仙台市に転入したママ限定のサロンを開いてみたら」ということ

から、福島県出身のスタッフを中心に考えたのがこの「きびたん sいずみ・たいはく」だったのです。

## 寄り添い続けて

のびすく泉中央では、震災時から悲しみや辛い気持ちが続いているママ向けに託児付きで「ママの気持ちトーク」を実施してきました。「震災時に出産時期をむかえたり乳児を抱えケアをしなければならなかったママたちの気持ちのケアは、これから数年がますます大事になります」と小川さん。今後も、さまざまなカタチで寄り添う支援を実施していく予定です。  
(鈴木美紀)

### ○団体情報○

一般社団法人マザー・ウイング

### ○連絡先○

仙台市泉中央1丁目8-6 泉図書館3F・4F のびすく泉中央  
TEL:022-772-7340 FAX:022-375-0671  
HP:<http://www.nobisuku-izumi.jp>

## ふくしまほっこりカフェ実行委員会(ハート&アート空間ビーアイ) 新しい暮らしをほっこり楽しく

ハート&アート空間ビーアイ(以下、ビーアイ)は、様々な創造活動を通じて、子どもたちが思いっきり自分を表現できる空間です。ものをつくり、料理、音楽など様々なプログラムが行われています。今回は、震災後に始まった、福島から避難している方々が集う「ふくしまほっこりカフェ」にお邪魔し、実行委員の清水千佳さんと榎島江梨佳さんにお話を伺いました。  
(ほっこりカフェの様子 ▶)



## 震災後のビーアイ

震災後、まだライフラインも復旧せず、街も大人も混乱していた中、「こどもたちに安心を」と、ビーアイはすぐに「いつもどおり」に整える努力をしました。会員の中には、大きな被害を受けた方もいたため、協力者から寄付を集めたり、奈良県で障がい者支援をしている財団法人たんぼぼの家の企画で、全国の障がい者から寄せられた詩と、ビーアイに通っている子どもたちの絵で「言葉のちから」という詩集を発行するなど、被災した方々を励ます様々な活動をしてきました。

## 前向きになる場所

今回の原発事故により、福島から避難を余儀なくされた方々は、県外にばらばらになり、必要な情報が届きにくいという現状を知りました。清水さんは、たくさんの方々が避難している仙台にも、気軽に集まって情報交換ができる場所を作ろうと、2011年5月にビーアイの空間を利用し、「ふくしまほっこりカフェ」を始めました。

取材をした日のほっこりカフェにいらした福島のお母さんたちは、お子さんの心の変化、時折様子を見に帰る福島の家のこと、子ども会役員の仕事、夏休みに出かけた仙台のイベントのことなどを語りながら、「とりあえず」と仙台で頑張ってきた一年

半を振り返っていました。冗談を言い合ったり、お菓子を食べたり、リラックスしてお話していくお母さんたち。子どもの受験や、これからの生活を考えると「そろそろ区切りをつけないとね」と、悩みながらも自分たちで決断し、前に進んでいかなければと話していました。

## 次の一歩へ

「ふくしまほっこりカフェ」では今後、お母さんたちから出てきた、「ほっこりカフェでやってみたいこと」をお手伝いしていきたいと考えているそうです。「夏休みも終わったしね」と秋に向けてお母さんたちからは、ヨガ、ベビーマッサージ、物づくりなどのアイデアが出ています。清水さんと榎島さんは「仙台での一歩を楽しく始めてほしい」と想いを話します。  
(松村翔子)

### ○団体情報○

ふくしまほっこりカフェ実行委員会  
(ハート&アート空間ビーアイ)

### ○連絡先○

仙台市青葉区立町20-11 ミカミハウス2F  
TEL:022-262-2969 FAX:022-262-2975  
HP:<http://www12.ocn.ne.jp/~bei/>  
Blog:<http://1987bei.blog.Shinobi.jp> Twitter:@zoukabako

復興の今を知る場

# サポセンサロン4

サポセン  
事業報告

## 「情報発信力を高める！情報交換会」編

9月18日(火)18:00~20:00、サポセン3F相談・つながるサロンにて「サポセンサロン4 情報発信力を高める！情報交換会」を実施しました。

今回のサポセンサロンは、被災地の地域紙・フリーペーパー発行団体、復興支援情報発信団体、震災記録団体の方々を対象に、情報交換・意見交換を通じて課題を共有し情報発信力を高め、より良い事業を行っていただくことを目的に開催しました。



ミニコミからマスコミ、紙からネットまでと、扱う媒体も多様な14名の方々にお集まりいただきました。自己紹介の後、活動を通じて感じること・課題などと思うことなどを発表していただきました。

その他、お互いへの質問や、課題解決のアイデアなど、活発な意見交換が行われました。また、「これからフリーペーパーを作りたい」という参加者の方へアドバイスもありました。

### 一部をご紹介します...

- 復興が進んでいるように見えても、情報が届かず取り残されてしまった方もいると分かった
- 誰向けに何を発信するか意識しないとただの集積になり、受け手の次のアクションに繋がらない
- 情報発信の大切さを現場の人に分かってもらうのが難しい
- 被災した方々の中には、どう表現したらよいか分からない方もいるので、「聞き書き」が有効ではないか
- 発信される情報が多く、いざ必要な時にどれを見たらよいか分からなくなる

- ・肖像権・著作権について
- ・手に取って、見てもらえる紙面づくりのコツ
- ・設置場所はどのようにして見つけるのか
- ・それぞれがアーカイブしたものを、共有できるネットワークづくりについて

20時の閉会でしたが、名刺を交換したり情報交換したりと交流は続き、とても賑やかなサロンとなりました。

参加者の方から、「NPOの発行物をまとめて見られる場所はないか？」というお話がありましたので、サポセン1F受付脇に設置した東日本大震災活動報告書&記録集コーナーをご紹介します。ぜひご活用ください。(菅野祥子)

### ■平成24年度仙台市市民活動サポートセンター 下期事業実施スケジュール

サポートセンターでは、団体同士やセクターを超えて情報交換する交流イベントや、NPOの基礎が学べる講座、事例から学び合う報告会などを開催していきます。ぜひ、活動にお役立てください。ご参加お待ちしております。

| 事業名               | 10月                                | 11月                                  | 12月                               | 1月               | 2月               | 3月                               |
|-------------------|------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|------------------|------------------|----------------------------------|
| NPOいろは塾           | ●10/12(金)<br>14:00~15:30           | ●11/15(木)<br>18:30~20:00             |                                   | ●                | ●                |                                  |
| NPO運営基礎講座         |                                    | ●11/21(水)<br>会計講座                    | ●中旬<br>資金調達                       |                  | ●下旬<br>会計講座      |                                  |
| 専門相談<br>シニア地域活動相談 | ●10/13(土)                          |                                      | ●12/8(土)                          |                  | ●2/9(日)          |                                  |
| サポセン出前相談          | ●10/14(日)<br>泉社会福祉C<br>10:00~15:00 | ●11/10(土)<br>青葉区中央市民C<br>13:00~17:00 | ●12/11(火)<br>市民図書館<br>14:00~17:00 |                  |                  | ●3/16(土)<br>市民図書館<br>14:00~17:00 |
| サポセンサロン           | ●10/16(火)<br>若者による復興支援活動           | ●11/17(土)<br>シニア世代の地域貢献活動            |                                   | ●1/15(火)<br>(予定) | ●2/19(火)<br>(予定) |                                  |
| 復興支援活動報告会         |                                    |                                      | ●12/21(金)<br>考えるテーブル              |                  | ●初旬              |                                  |

まだ＊これ  
**シニア  
横丁日記**

「シニア横丁」は、まだまだ、これから！50歳後半からのセカンドライフに意欲を燃やす人や情報が集まる場所。これから新しい一歩を踏み出そうとしている方は、ちょっと寄っていきませんか。

## シニア世代に目を向け寄り添い情報発信

みやぎシルバーネット 編集発行人 千葉雅俊さん（51歳）

千葉雅俊さんが編集発行している、60歳からの情報紙『みやぎシルバーネット』は、今年で創刊16年を迎えました。毎月月末に約35,000部を発行し、仙台市内各所で無料配布されています。

今回は早くからシニア世代に注目し情報紙発行を続けてきた千葉さんにお話を伺いました。



### シニア世代の情報紙をつくろう！

編集者としての経験を活かして、地元仙台のために何かしたいと考えたのは、千葉さんが35歳の頃。マスコミ等が、高齢化社会がやってくると盛んにつぶやき始めた頃でした。勤めていた編集会社を一身上の都合で退職。家業を見つつ、編集に関わり、生まれ育った仙台を中心として地域に何か役に立つことをしたいと思ったのが創刊のきっかけでした。

当時、若い人向けや主婦向けの情報紙等は盛んに発行されていましたが、高齢者向けの紙媒体はほとんど無いということに気が付いた千葉さん。「情報を得られず困っている高齢者は多いはず、その方々に役に立つ情報を届けよう」と考えたといいます。自分の老後の予習も兼ねて自分自身も楽しみながら、シニア世代向けの情報紙をつくろうと事業を起こすことを決意しました。

### 試行錯誤しながら3万5千人の読者の絆

実際のところ本当にやっていけるのか、まして読者ターゲットとして狙ったシニア層に受け入れてもらえるか一番心配だったといいます。また、情報が欲しい人、必要な人に確実に届けるには配布先が最も重要なポイントになります。老人福祉センターや老人クラブ、病院等に足を運び、地道に配布先を開拓。現在発行部数は創刊時の1万部から3万5千部へと拡大しています。

紙面の中で一番人気は、創刊以来続いている「シルバー川柳」。投稿数も毎月150通を超え、読

者が直接参加し交流できる大切なコーナーとなっています。3年前からは、読者の方々からの要望で旅行会を年に3回開催し、紙面を越えたネットワークづくりや読者間の交流も深めているそうです。

昨年の震災直後も休むことなく発行し続け、避難所や仮設住宅等に届けるとも喜ばれたといいます。紙面上では、読者同士で励まし合う投稿が交わされ、震災で被災した方々にとって「心の助け合い」の場にもなっている様子を見て、紙媒体の絆も捨てたもんじゃないなあと感じたといいます。

### 好きなことを活かして誰かのために何かしたい

創刊当初から、シニア世代を取材し続けてきた千葉さんは、常に人生の先達である先輩たちの後ろ姿を追いかけながら、元気な姿に勇気づけられてきたといいます。「16年前のほうが“超高齢化社会に向けて、力を合わせて何かしよう！」という人が目立っていたように思いますね。最近は、自分の好きなことに集中する方が多くなってきたかな」と、時代の流れも感じているようです。

それでも、紙面で紹介した団体やイベントに参加していただけたら、提供した情報を少しでも生活の中に取り入れていただければ、それは編集者冥利につきます。千葉さんが想いを叶えていくプロセスは、シニア世代にも参考になりそうです。『みやぎシルバーネット』は、サポセン3階の相談・つながるサロンにも置いてありますので、どうぞご覧ください。（葛西淳子）

# 市民活動サポートセンターからのお知らせ

貸室申込手続きを一部変更予定です

サポートセンター1階窓口にはパソコンが2台登場し、驚いている方もいるかもしれません。現在、サポートセンターでは、利用者のみならず、より簡単に、便利に使用申込できるように、貸室の申込手続きの見直しを行っています。

準備が整い次第、改めてご案内いたしますので、ご期待ください。



## 復興の今を知る場 サポセンサロン5

サポセンでは、参加者同士の情報交換や学びあいの場を通して復興の今を知り、社会にある資源（人材、物資、資金、ノウハウ、情報など）を被災地域で活動する方々につなげる月1回の企画、「サポセンサロン」を始めました。

● 10月16日(火) 19:00~21:00

今月のテーマ「復興支援活動を行う若者の情報交換会」

## サポセンひろば

利用者の皆さんから寄せられた声にお応えします。

隣のテーブルが大人数でうるさかった。  
(5階交流サロン利用者より)

→改善しました。

交流サロンは少人数の打合せや作業に利用できるオープンスペースです。利用者同士が気をつけてご利用いただくのが原則ですが、各テーブルの間にホワイトボードを間仕切りになるよう設置し、受付時に少人数での利用を改めて周知徹底するようにしました。

また、1階受付にて交流サロンの利用状況がわかるボードを設置し、座席をご案内するようにしました。「受付を済ませて5階に行ったら席が埋まっていた」ということのないよう改善しましたのであわせてお知らせします。

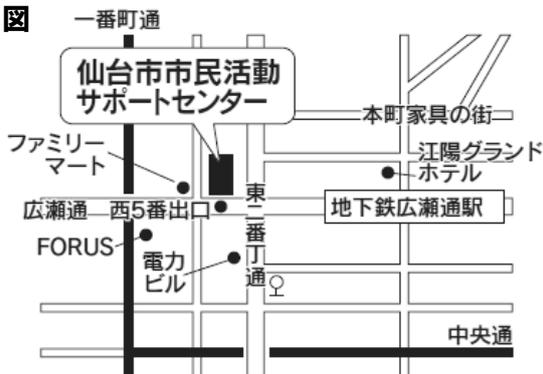
### ■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

### ■ 仙台市シニア活動支援センターとは

これまで同様、シニア世代の地域・社会参加活動を応援していきますので、お気軽にお問合せください。

### ■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車・駐輪は、周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

【最寄のバス停】電力ビル前、商工会議所前

【地下鉄】広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

### ■ 開館時間

平日/午前9時~午後10時

日祝/午前9時~午後6時

### ■ 10月の休館日

第2水曜日 10/10

第4水曜日 10/24

編集後記：

今回は、津波や原発事故をうけて避難された方々の仙台での暮らしが、楽しく安心なものであるようにと活動する団体さんをご紹介しました。「仙台っていいまちだな」と思ってもらえたら嬉しいです。(スタッフ一同)

発行：仙台市市民活動サポートセンター

仙台市シニア活動支援センター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

ブログ <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2012年10月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 松村翔子

● ばれっとは、市内の公共施設、県内外のNPO支援センターなどに送付しています。

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日~2015年3月31日]